



No. 11

発行所 山形県手をつなぐ親の会事務局
社団法人 山形市旅籠町1丁目10番30号
山形県社会福祉会館内
TEL 山形(3)6572
印刷所 K.K. 誠文堂印刷所

昭和四十二年年度

第三回県手をつなぐ親の会

通常総会が開催された

期日 昭和四十二年五月七日(日)
会場 山形市十日町二丁目
明治生命五階ホール

昭和四十二年度事業計画並に予算案に関する審議を中心とした総会が小雨ふりしきる五月七日(日)明治生命会館で、出席者一七名、委任三五六名のもとに盛大に開かれた。本年度の総会は例年より充実した内容を折り込んで進行されましたことは、本会の意識が一步社会に前進された現われとも云うべきものと思ふ。

特に午後からの講演はユーモアたっぷりの精薄者の生活実態を知ることが出来、私達は勇氣と希望をもつて不幸な子供達の為に新しい明日に生きぬくことを誓い、意気深い通常総会を無事終了致しました。

会長の挨拶

ターケアーはどうなるのか、特殊学級就職後の問題、コロナ計画の実現など山積しているが、四十二年度は親子講習会を長井でおこない、県と協力して重症心身障害児施設(国立)誘致運動を展開したが実のらず昭和四十三年度は実現に落ちついたちえおくれの子がいるために、親兄弟が犠牲になつてはならない。自分の子を含めて社会問題として世に訴えるために、私共親は手をつなぎ合っているのである。いろいろな問題があるが早期に対策を講じて解決してゆかなければならない。

祝辞

山形市長 金沢忠雄殿

施設の拡充、コロナー運動、是非解決しなければならぬ社会問題で

あるが、人間社会の責任として解決しなければならぬ。山形市では精薄施設をつくる予定であるが、五〇名収容のものにしたい。そして将来は授産施設をつくつていく、土地の買収もはじまり四十三年には是非建設したいと考えている。子どもには罪はないのであるから、暖かい心で解決の道を考えなければならぬ。今後、市長会にも呼びかけてこの仕事をすすめたい。

山形県特殊教育研究会長

長谷川金太郎殿

山形県手をつなぐ親の会が誕生して十数年の才月を隔てたが、その間いろいろな苦難にぶつかりながらも各支部の結成、特殊学級の設置等に私共手をつなぎ合つて今日までまいりました。

ようやく、手をつなぐ親の会の認識もたかまり三年前には社団法人の組織をして、広く一般社会に訴えるまでになりましたことは喜びにたえない次第です。

発足当時、山形にも親の会をつくりたいと有志が語り合つた時も雨が降つておりましたことを思い起こします。母よ嘆くなかれ、この子をもつた親はどうしなければならぬかこの子らに光りを与えてやらねばならない義務がある。そのためには愛情と情熱こそ真の姿なのである。今

後益々親の会が発展されますことを祈ります。

山形県児童課 安藤邦雄殿

手をつなぐ親の会が発足してから十有余年になつたが、その間の成果は実にすばらしいものがあり、山形県社会福祉機関の一つとしてはかかすことのできなない重用な役割をしております。毎年親の会と共催して行なつている親子講習会も充実された多くの課題を一つ一つ解決しながらやつてきておる。

昨年度は重症心身障害児(者)の施設誘置問題(国立米沢結核養療所に陳情するなどしたが、今年度は是非実現するように努力している。又現在親の会が試みているコロナーについても県としても真剣に考えているが、コロナーそのものの法律が出来ていない為に研究して失財のなもにしてゆきたい。

国としては国立コロナー(群馬県高崎市)に約六十億円をかけて千五百名の収容施設を計画しつつある。そのように山形県も先進地を十分参考資料にして建ててゆきたいと思つている。最後に親の会が今度益々御発展されます様祈る。

進行 太田清雄

議長 今井章介

第一号議案

昭和四十一年度事業並に決算に關する件、コロナ特別会計計算の説明があり、その時金森監事より

監査状況と方針などの説明があつて、昭和四十一年度の収支決算は適正であることを認められた。

第二号議案

昭和四十二年度事業並に決算に關する件について、中村会長並会田會計理事より説明があり、満場一致で第二号議案を承認した。

尚、本年度の予算額が前年度の予算額より三〇三、四四八円減額されたのは、本会の運営を主幹とした交付金(愛のひとしづく運動)の協力が少なかつたのが大きな原因を呈した。これはコロナー募金とかさなつたのもありましたが、今後この様な不安定な基礎にたつての運営は危険をまねくおそれがある為に、会員一人々々が真剣に検討する実態にあると思う。

ご欠席の方々のために以下その大要を報告致します。

昭和四十二年度事業計画(案)

一、基本方針

昭和四十二年度は従来の事業の反省の上に立つて本会の基礎をかため質的に一層高めることに努力する。イ、組織の強化拡大をはかるためにブロック組織をまとめ全会員の意志の疎通を図る体制をつくり、未組織地区の啓発につとめる。ロ、理事会に部会を設け問題別に運営を促進する。

ハ、庇護、授産施設の設置、精薄者コロナーの早期建設を目指して積極的に推進する。

ニ、特殊教育の拡充強化を促進するホ、行政機関に緊密な連携のもとに相談事業案の実をあげる。ヘ、社会の理解と協力を求め世論の喚起をはかるために啓蒙宣伝に努める。

二、事業

イ、相談事業にして本会事務所及び支部毎に地域の責任者宅に相談所を開き精神薄弱児(者)に關するあらゆる相談に應ずる。

親子講習会を酒田に於て開催、父兄たちの在宅指導の相談に應ずる。重症手当等の福祉施策に當る。各種大会への参加は全日本精神薄弱者育成会に理事、評議員をおくり、全国的な連繫をもつて事業を進めていく。又東北ブロック大会にも参加して、こどもたちの幸せを高めるために啓蒙につとめる。今年には宮城県でもたれる。

今年には宮城県でもたれる。啓発調査研究事業としてイ、県親の会だよりにより会員相互の連絡をはかると共に、社会の理解を深めて世論を喚起する。

ロ、庇護授産施設、職業補導施設、精薄者コロナーなどの視察実態調査。ハ、県内各ブロックあるいは地域毎に手をつなぐ親のつどいを開き会員の意識を高揚し組織の強化をはかる。

ニ、精薄者コロナー建設のために資金を募るとともに積極的に運動を展開する。ホ、施設、特殊学級、情宣部会を設

けて研究を深め推進をはかる。ヘ、特殊教育研究会と連繫をとり特殊学級設置地域に組織普及をはかる。

ることを反省した。山形県手をつなぐ親の会

監事 金森 正平 橋本 久蔵 今野十四郎

ト、会のPRと財政獲得ののために「愛ひとしづく運動」を実施し、本会の趣旨が社会に浸透するよう努力する。

以上本年度の事業計画(案)を目標に満場一致で承認されました。その後質疑応答、意見などがあ

りましたが、親の会を社会に極力に押し通すためにはPRが一番大切であ

社会福祉法人

富山県精神薄弱者育成会

精薄者の村「セーナー苑」の概要

去る五月七日(日)午前十時より講演を含めた通常総会が山形市明治生命会館で盛大に開かれました。午後の講演は、現在富山県で設立しております精薄者村「セーナー苑」の過去、現在未来について有意義な講演を富山県精神薄弱者育成会常務理事佐藤氏より拝聴することが出来て、私達一人々々心をあらたにした次第です。その概要として、当日欠席なされました会員の方々にも富山県のコロニーを知っていただくために載せることにします。

昭和三十七年に県内各地の「手をつなぐ親の会」を統合し「富山県精神薄弱者育成会」を結成して、その

後精薄者村「セーナー苑」の母体がつくられた。この「セーナー苑」の命名は(会長吉田県知事)によるもので、釈尊は善なるものを求め、無上の絶妙なる静養の地を求めて、印度マガタの国を遊歩しつつ、ウルヴェエラのセーナー聚落にはいつた。そこに、愛すべき地域、うるわしの森林、流れゆく川、よく設けられた美しい星、四囲豊かな村落を見た。その時釈はこう考えた。ここにこのこの地域は愛すべく、森林はうるわしく、川は流れく堤はよく設けられて美しい。じつにここは努め励もうとする良家の子が修学するのに適している地だつたと考えて、その地に坐しさとを開かれたというのである。

開村に至る経過として
昭和四十年五月に聖徳太子講演会
による育成会運営資金達成の話が須
垣副会長より育成会にある。

昭和四十年六月同講演会による益
金十万円の使途について理事会で精
薄者の援護施設建設が会員の急を要
する要望であることを確認し、これ
を基金として自力建設にふみ切る。

昭和四十年七月法隆寺、清水寺、
妙心寺、三管長の色紙一、〇〇〇枚
の頒布について会員にはかり目標達
成をめざす。

昭和四十年八月建設敷地の候補地
について、県内の有力地を物色(六
ヶ所)。

昭和四十年九月聖徳太子講演会開
催富山県聖徳太子会より一〇〇万円
を育成会に寄贈並び会員の大沢野坂
本森義孝氏より敷地提供の申し入れ
ある。

昭和四十年十月大沢野町長に敷地
買収について正式に申し入れる。

昭和四十年十二月大沢野町坂本開
拓地に正式敷地を決定、大沢野町当
局において地主との交渉を一任する
又他方では資金造成とPRのため明
治大学マンドリンクラブ演奏会を富
山高岡で開催

昭和四十一年一月自己資金造成の
ための会員有志より一口十万円の拠
金を決定有志を募る。

昭和四十一年二月県立乳児院の建
物無償下げを受ける。

昭和四十一年三月県厚生病院の建
物の無償下げを受ける。同敷地の

買収決定、坪平均二六〇円で四万六
千坪余、講入手続一切を大沢野町当
局に依頼して現地で起工式を行い、
「セーナー苑」と命名する。

昭和四十一年四月社会福祉法人の
認可を受ける。役員選任する。

昭和四十一年五月県立富山学園の
建物一部を無償下げを受ける。又
富山市より山室小学校の建物一部無
償下げを受ける。

昭和四十一年八月精神薄弱者援護
施設適合認定申請書を提出、開村を
九月一日と決定されている。

敷地について
イ、買収面積 畑四四・五九三・三坪

田 四五〇坪
山林 一、二五一・一坪

計 四六、二九四・四坪
口、寄附面積 山林 二、〇六六坪

ハ、買収代金一三、二六一、九一七円
ニ、支払代金四三、〇〇〇、〇〇〇円

坪総計 四八、三六〇・四坪
。建物の無償譲与

富山県立乳児院 延坪 五七・三七坪
富山県立厚生病院診療棟

延坪 三七四・七八坪
富山市山室小学校旧校舎

延坪 一二四・二五坪
富山県立富山学園園舎一部

延坪 七二・七三坪
。建物工事

1、管理棟
木造平屋 七六・二五坪

2、収容棟
工事費 三、六六三、〇〇〇円
A 木造平屋 五七・〇〇坪

3、作業棟
A 木造平屋 五〇坪
工事費 未定

B 木造平屋 四〇・六三坪
工事費 一、二七八、〇〇〇円

4、職員宿舎
木造平屋 二二・四六坪
工事費 一、四七五、〇〇〇円

昭和四十二年度
第一回理事会

コロニー建設の早期実現方策を焦
点とした昭和四十二年度の理事会
を郷野先生の意見を参考資料にして
活発な協議がなされた。

期日 昭和四十二年
五月二十八日(日)

場所 本 会 事 務 所
出席者十名、委任五名、欠席四名

精神薄弱者コロニー建設

陳情請願のお知らせ

昭和四十一年度の事業計画として
も精神薄弱者のコロニー建設を促進して
まいりましたが、その進行は非常に
苦難なものがありまして、早期実現
はほど遠い感じが致します。そこで
先般昭和四十二年第六回理事会が
開かれた折コロニー建設を早期に促

のもとに開会をされました。従来検
討して来た県立民営のコロニー建設
を再検討して早期実現方策を樹立し
なければならぬ実態に局面している
ため開かれた。その結果コロニー建
設準備委員を編成して推進すること
に決定し、県親の会の組織とコロニ
ー組織を別個の法人組織で運営する
ことに一致した。

建設予定地を米沢地区とするが、
場所が決定次第臨時総会を開いてそ
の趣旨を会員並び関係諸団体に発表
して承認をうけることになった。尚
全般県内のPTAより絶大なる御援
助を賜わったコロニー資金は建設や
設備品などに使用することになりま
したが、それでも足りない分は第一
次収容者がカバリーしてゆくことにし
た。依つてコロニー建設早期実現は
県の行政から反断して県立民営の線
はほど遠くなり民立民営の線が濃厚
になった。

進する為に県議会に陳情することを
理事会で決定しました。その陳情の
実施内容を報告致します。

期日 昭和四十二年六月十七日
場所 山形県庁

陳情先 山形県知事、県議会議長
総務部長、民生部長、県議

厚生委員長、厚生部社会課長、民生部児童課長、事務局長

陳情者 中村律、吉田二郎、梅津貞夫

署名数 一、五三三名

陳情書内容

(写) 昭和四十二年六月十七日

陳情書

社団法人 山形県手をつなぐ親の会 陳情書

精神薄弱児(者)福祉対策等につきましては、県御当局ならびに教育関係等の特別の御高配により、収容施設特殊学級の増設などその成果ある施策の発展をみましたことは、精薄児を持つ県下一万有余の私達保護者のひとしく感謝いたしているところであります。

然しながら、この智恵るくれの子供たちのために開設されました収容施設の園児を始め、特殊学級を終了して社会に巣立ち行かねばならない満十八才以上の精薄児(者)は県下に約一千数百名を数えている現状であります。この子たちを受入れてくれる社会は果してどこにあるでしょうか。理解ある職親、里親の方々のお世話になつて、曲りなりにも社会人としての仲間入りをさせて頂ける子供はほんの一分にすぎません。大半の子供は親の庇護によつて家屋や世間の冷たい環境に放置され、折角受けた収容施設や特殊学級など諸先生方の血のじむような生活訓

練も半才を待たずに崩れ行く重大な問題を投げかけております。

しかし適切な更生指導と補導訓練を継続いたしますならば、この子供たちにもその能力に応じたが分野を拓くことができることを信じております。そして親たちが健在なうちはすべてをかけてこの子供たちを保護してまいります。親なきあとのことを考えると死んでも死にきれない心境であります。なんとかこの子供たちの将来に光明をかかげてやりたいと、私共もできるかぎりの力を結集して目的遂行のため日夜苦闘を続けております。

どうぞ、温い福祉行政によつて満十八才以上の精薄児(者)のために終身能力は応じ生産活動に参加しながら一生生涯生活する場、即ち精神薄弱児(者)コロニーを早急に設立して頂きたく陳情いたす次第です。

昭和四十二年六月十七日

社団法人 山形県手をつなぐ親の会 会長 中村 律

殿

第七回東北ブロック

大会のお知らせ

毎年東北各県の智恵おくれ子をもつ親をはじめ、特殊教育並びに施設にたづさわつている職員及び関係者が一堂に会し、研修会において、当面する精薄問題について打解方策を究明してゆこうとするもので、今年

宮城県で八月二、三日の両日開催されることになりました。

毎年充実された内容のもとにおこなわれますが、今回も研究部会が三部門に編集されておりまして第一部会は「在宅児の指導及び学会児の教育について」第二部会「青年期の問題」第三部会は「親の会の今後の組織活動」となつております。

第一日目は正午より四時三十分まで、第二日目八時三〇分より一時までになつております。山形県よりの交通費、時間割は非常に好都合になつておりますので日帰りも出来ます。詳しいことは各支部の会長宛に資料を提供しておりますので、出席希望者は御相談下さい。まして意欲ある東北ブロック大会に出来るだけ多く御参加下さる様御案内いたします。

「親の声」第一集

寒河江市手をつなぐ親の会

今年度、寒河江市手をつなぐ親の会が発足してから四年の才月を歩んできましたが、その苦しいことや悲しい体験を卒直に書いていただいたものを「親の声」として一書としたもので、非常に興味ある参考書になります。

本年度初めての試みとして寒河江市手をつなぐ親の会で発行されましたことは、お喜びにたえない次第であります。これから不幸な子供たちのために益々頑張つてくださることを期待してあります。

山形県手をつなぐ親の会 (事務局)

昭和42年度 山形県手をつなぐ親会 月別事業計画予定表

月	事項	予	定	表
四月	昭和四十一年度会計監査、親の会だより十号			その他
五月	昭和四十二年度総会、理事会、富山視察			東北ブロック大会準備委員会
六月	コロニー建設に関して県に陳情			全国理事評議会 県社福大会
七月	理事会親の会だより十一号			親子講習会準備
八月	親子講習会(酒田)			東北ブロック大会、宮城(仙台)
九月	理事会、愛のひとしづく運動開始			
十月	親の会だより十二号			PTA大会
十一月	理事会			全国大会(大阪)
十二月				
一月	親の会だより十三号			
二月				
三月	理事会			

詳しい昭和四十二年事業計画は今度の通常総会の時委員の皆さんに御配布しました資料誌に載せておりますので御覧下さい。